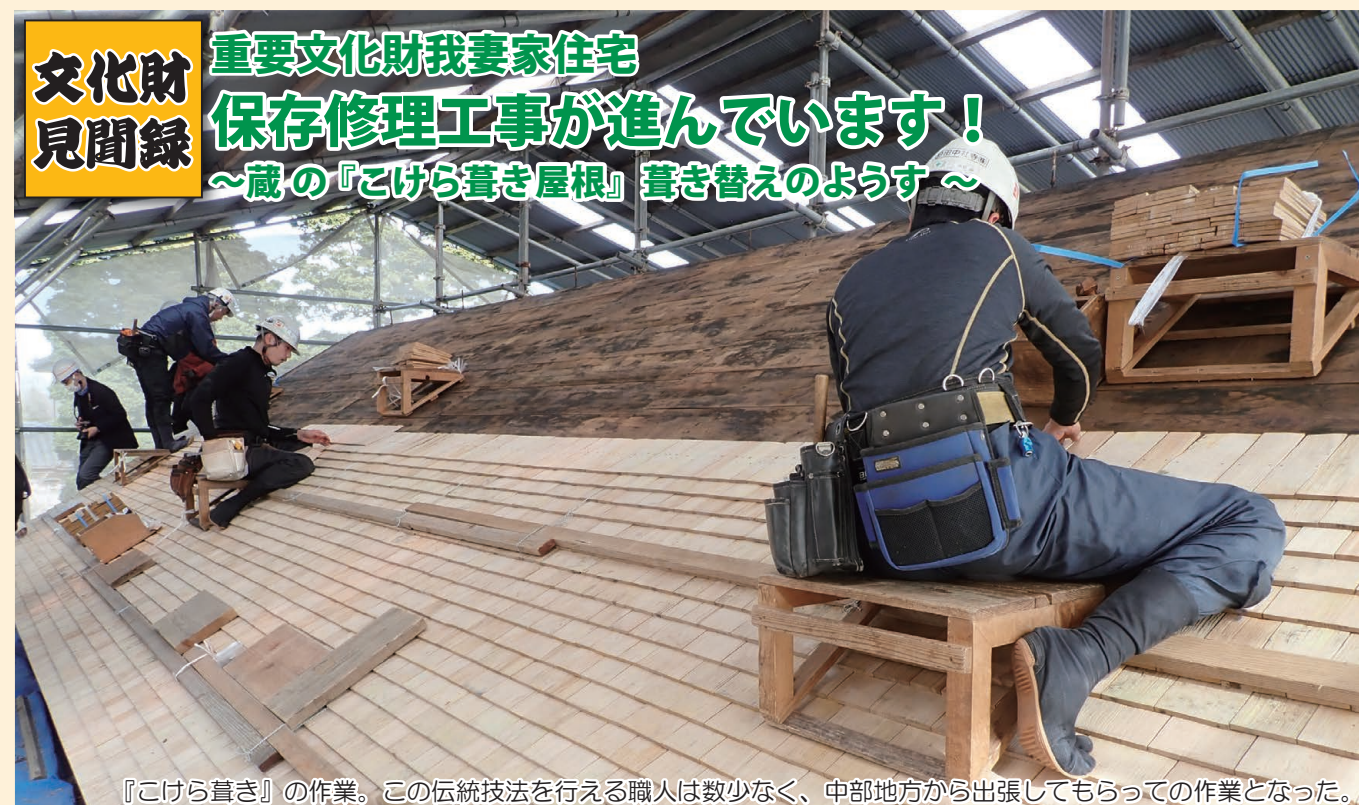




曲竹地区にある我妻家住宅は、豪農・我妻家の居宅として建てられた茅葺民家で、壮大な作りと良好な保存状態により昭和46年に国の重要文化財に指定された、町を代表する歴史遺産です。江戸時代中期（1753年）建築の主屋を中心に、蔵4棟、表門などが重要文化財として保護されています。

伝統的な建造物は、建物の材料や構造の面で地震に弱い傾向があります。また、茅や木の板などで葺いた屋根は、経年劣化が進むため定期的な葺き替えが必要です。我妻家住宅でも、令和3年2月・令和4年3月の地震で建物がゆがんだり、土壁が落ちるなどの大きな被害を受けました。また、主屋や蔵の屋根などの劣化が進んできたことから、令和3～6年度の期間で総合的な保存修理事業を行っています。

令和4年度は、文庫蔵の傾き修正、前蔵・穀蔵の土壁塗り（途中）、前蔵・板蔵の屋根葺き替えを行いました。これらの蔵の屋根は『こけら葺き』といい、栗の板を使った伝統的な技法で葺かれています。こうした植物材料の屋根は昔は各地でごく普通に用いられて

いましたが、時代とともに減少し、ほとんど残っていません。今回の葺き替えは、文化財の保存に不可欠な作業であると同時に、今となっては希少なこけら葺きの技法を目にするまたとない機会でもありました。



我妻家住宅全景。主屋を中心に複数の蔵や小屋が建ち並ぶ。



『こけら葺き』屋根の前蔵（左）と板蔵（右）



修理前の前葺屋根。葺いてから40年が経過し、こけら板は薄くポロポロになり、苔むしていた。



修理前の板葺屋根。葺いてから20年だが、付近の杉の枝葉が積もり、板の原形を留めないほどに腐朽が進んでいた。



こけら葺き作業。栗材を手割りした『こけら板』を、板の端を一直線に揃えながら、一枚ずつ釘止めしていく。



職人が使う金づちは、こけら葺き専用の特別なもの。柄が短く、釘を叩く頭の部分はサイコロのような形をしている。



『こけら板』を止める釘には伝統的な竹釘を使用（今回はステンレス釘も併用）。竹を細く割り、煎って硬くしたもの。



数十本の釘を口に含み、舌と唇を使って向きを揃え、一本ずつ出す。これが一番効率が良い。「慣れないうちは口の中が傷だらけになるんだ。」とのこと。



葺き終えた板葺。整然と並んだ真新しい『こけら板』が美しい。棟（屋根の最上部）には銅板で包んだ『樋棟』を据える。



前葺の『樋棟』。長さ12mほどもあり、3つの材を組み継いで作られている。これを銅板で包んで棟に据える。

文化財 Q&A

遺跡の発掘調査はどのように行われているのですか？

町内には約 200 か所の遺跡があり、遺跡地図でその所在をお知らせしています。これらの遺跡が工事などで影響を受ける場合には、事業主の協力を得て町教育委員会が発掘調査を行い、詳細な記録を作成しています。発掘調査の進め方を写真で解説します。

①表土除去

新しい時代の地層は重機を使って取り除いていきます。調査員が注意深く地層を確認しながら、熟練のオペレーターが少しずつ慎重に掘削していきます。



②遺構確認

古い時代の地層を人力で削って遺構や遺物を確認します。周囲の土と異なり黒く見えている部分が住居や柱の跡です。



③遺構精査

遺構を埋めている土を慎重に掘り下げていきます。遺構の中からは、土器などの遺物も多く出土します。



縄文時代に掘られた貯蔵穴の調査



土器が出土した様子

④記録作業

確認した遺構や遺物を、図面や写真に記録します。地層の状態や遺物の出土状況を注意深く観察し、できる限り詳細な記録を作成します。



どんなに小さい手がかりも見逃しません。

以上が発掘調査のおおまかな流れです。どの工程においても慎重に、よく観察して作業することが求められます。発掘調査は遺跡を掘削して終わりではありません。遺構の特徴や、そこから出土したたくさんの土器などの遺物が教えてくれる情報を報告書にまとめます。次回は整理作業についてお伝えします。

※「蔵王町遺跡地図」は町教育委員会（ございんホール窓口）で配布しているほか、町文化財ホームページでもご覧いただけます。

文化財トピックス

文化財防火デーを実施

～郷土の誇りを次代へ～

長い歴史の中で守り伝えられてきた文化財は、先人たちの営みを今に伝える大切な遺産です。しかし、昭和24年、奈良県の国宝・法隆寺金堂の壁画が火災で焼損し、国民に大きな衝撃を与えました。その後、火災が発生した1月26日を「文化財防火デー」とし、毎年、防火設備の点検や消火訓練などが全国で行われています。

日本の文化財建造物の多くは木造です。屋根の素材はほとんどが茅や檜皮のような植物なので、火災にとっても弱い構築物となっています。そのため、火災で一度失われてしまうと元の姿に完全に戻すということが非常に困難です。蔵王町には国や県、町指定の文化財建造物が

5件ありますが、その全てが木造です。

文化財防火デーを前に、蔵王町では1月25日に我妻家住宅（国指定文化財）と刈田嶺神社（県・町指定文化財）で防火設備の点検を行いました。天候不順のため消火訓練は見合わせましたが、所有者と白石消防署、町教育委員会の三者が日頃からの災害への備えを確認しました。

地域に残されたたくさんの文化財は、町民の皆さんが郷土を大切にしてきた証です。文化財の防災は、各種文化財の所有者の方や関係者だけで成し遂げられるものではなく、地域住民の皆さんや消防機関と一体となって取り組むことが必要です。文化財の防火について関心を高め、私たちの地域の誇りである文化財を将来へ受けついでいしましょう。



常設展示『谷地遺跡～蔵王山麓に営まれた縄文ムラ～』がリニューアルオープン

縄文時代中期（約5,000年前）の蔵王山麓有数の大規模な拠点集落跡と判明した谷地遺跡を紹介する常設展示『谷地遺跡～蔵王山麓に営まれた縄文ムラ～』で進めていたリニューアル作業がこのほど完了しました。

今回は、令和3年3月の地震により破損した土器を修復したほか、新たに展示ケースを増設し、展示品の入れ替えと追加を行ないました。展示品は縄文土器約80点などの計約500点で、従来の約2.5倍に増えました。

3月19日には、文化財講座・展示解説会「蔵王山麓の縄文ムラ～谷地遺跡の発掘調査から～」を開催し、谷地遺跡の発掘調査で分かった縄文ムラの様子や、出土品から分かる活発な地域間交流について担当者がスライドを用いて解説しました。



常設展示はございんホール2階ラウンジで、午前9時から午後6時まで自由に観覧することができます（毎月第一月曜日と年末年始を除く）。ぜひ足を運んで南東北の蔵王山麓に花開いた縄文文化に触れてみてください。



最新の情報はWEBでチェック！！

蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ

どきたんドットコム <https://www.dokitan.com>

町内の歴史や文化財に関する詳しい情報や、最新のイベントの情報などをお知らせしています。

蔵王町の歴史と文化財 どきたん通信 No.006

令和5年（2023年）3月発行 [不定期発行]

蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北10番地

蔵王町役場東庁舎 文化財整理室内

TEL 0224-33-2328 FAX 0224-33-3831

E-Mail info@dokitan.com WEB <https://www.dokitan.com>

